

山ぼうしは「立志の樹」といわれ、本校正門脇に植樹されており、
花も実も 蒼天に立つ 山ぼうし
の碑（初代PTA会長盛合聡の揮毫）がある。



開校記念日にあたって（5月23日）

校長 兼 平 栄 補

本校は昭和48年(1973)、県下第8番目の工業高等学校として設置が認可されました。

4月16日に機械科実習室において、開校式並びに第1回入学式が挙行され、第1回生として機械科2学級、電気科1学級、設備工業科1学級の女子1名を含む168名が入学したのであります。

入学式において初代渡邊校長は、「第1回生としての誇りを持ち、創業の困難に耐えて、立派な高校生活を送るよう希望する」と式辞を述べております。

同年5月23日には機械科製図室において開校記念式典が挙行されました。これが今日まで受け継がれている開校記念日の由来です。

昭和49年3月には東北ヒロセ電機(株)が津軽石に設立され、翌年には工場が完成して操業が開始されております。これを機に宮古地域は、コネクタ産業、金型産業が振興し、企業の進出や地元企業の創業により宮古市は第4期の製造業集積期となります(第2期はラサ工業などの重工業、第3期は足立ベニヤ(現ホクヨープライウッド)などの合板産業。現在は、管内の高卒求人の75%は工業系職種の求人となっています)。

本校は、これら地場の企業にも有為な人材を供給し、地域産業の振興を支えてきております。特に、近年は、男子の高卒地元就職者の大半が本校の卒業生であり、地域の製造業発展に本校の果たす役割はますます大きくなってきております。本校生は将来の宮古の発展を双肩に担っているのです。本校は地域に信頼

され、大きな期待が寄せられております。宮古市産業支援センターなどからの手厚い支援はその現れであります。

本校は開校以来、産業構造の変化や少子化に伴い、電子機械科の新設や同科の募集停止など学科改編を行っており、昨年度から完全3学科体制となりました。

この間の本校卒業生は現在までに4,800名弱となり、工業立国日本を支える技術者として管内・県内はもとより全国各地、そして世界各地で活躍しています。

平成3年4月には、地域との連携、創立20周年に向けて生徒会活動の活性化、通学マナーの向上を目的とした津軽石川原清掃が初めて行われ、良き伝統として現在に至っています。

平成15年10月には、本校の大きな節目である「創立30周年記念式典」が盛大に挙行され、30年の歩みを誇りに、更なる飛躍を誓い合いました。

松尾芭蕉が、弟子森川許六が帰郷する際に与えた文の一節「古人の跡を求めず、古人の求めたる処を求めよ」の精神が本校の開学の理念ですが、これは「先人の足跡をそのまま真似するのではなく、先人が追求した本質、精神を学べ」ということであります。

36回目の開校記念日にあたり、輝かしい伝統を継承し、未来に思いを馳せ、生徒一人ひとりが、宮工生としての自覚を持ち、それぞれの決意を新たにして欲しいと願っています。

6月の行事予定



3日(水) 芸術鑑賞会	21日(日) 漢字検定
5日(金) 機械製図検定(1次)	22日(月) 定例職員会議
7日(日) 第2種電気工事士筆記試験	23日(火) ~ 25日(木) 内科検診
11日(木) 先輩に聞く会(3年)	25日(木) 飲酒喫煙防止教室(1年)
12日(金) ~ 16日(火) 第1期定期試験	職業講話(2年)
12日(金) 英語検定	26日(金) 情報技術検定
17日(水) ~ 18日(木) 校内球技大会	30日(火) 学年成績会議

